



石島さんの説明に真剣な児童たち

下妻の農業の特色である「米作り」を体験し、地域への関心、自然や環境を考えようとする意欲を高めようと市内小学校で「田植え体験」が実施されました。

総上小学校では5月17日、2年生14人、5年生27人が、二本紀で農業を営む石島和美さんの指導のもと、田んぼに並んで、ひとつひとつ丁寧に手で苗を植えました。児童たちは裸足で田んぼに入ると、はじめは「ヌルヌルして気持ち悪い」などと騒いで動きづらそうでしたが、慣れるにつれて笑顔を見せ、みんなで協力しながら作業を進めていました。

秋には「稲刈り」「もみすり」の体験や「収穫祭」でのおにぎりパーティーが予定され、児童たちからは収穫を楽しみにする声が聞けました。

地域の特徴「米作り」への関心高める
市内小学校で田植え体験



ベルトをかけた稲葉市長と青木選手(中)、増田市議会議長(右)

フィリピンで4月20日に行われたボクシングWBCアジア・ライト級王座決定戦で新王者に輝いたプロボクサーの青木誠選手(結城市・34歳)が5月23日、母親が下妻出身であることから下妻市役所を初めて訪れ、チャンピオンベルトを披露しながら「これも地域の人達や後援者のおかげです」と感謝の言葉を述べ、「もっと強いボクサーを目指します」と今後の意気込みを語りました。

青木選手は20歳の時に、大阪のグリーンツダジムに入門し、その翌年にプロデビュー。通算戦績は14勝12敗2分けて、8月には防衛戦が予定され、稲葉市長は「期待しているので頑張ってもらいたい」と励ましの言葉を送りました。

もっと強いボクサーを目指します
WBCアジア王者・青木誠選手が下妻市役所を表敬訪問



力強い選手宣誓(千代川中・篠崎主将)



チーム全員で勝利の雄叫び(下妻中) 優勝メダルを受ける選手たち(下妻中)

第70回記念大会で「下妻中」が優勝

第70回記念為桜野球大会

第70回記念為桜野球大会が4月28日・29日、5月3日・4日の4日間、県西地区やつくば市から53中学校が参加し、柳原球場をメイン会場に52試合が開催されました。

開会式では、記念大会とあって下妻中学校吹奏楽部のマーチで全チームが入場行進し、千代川中学校の篠崎泰彰主将が「感謝の心を忘れず、中学球児らしく、正々堂々、元気よくプレーすることを誓います」と力強く選手宣誓を行いました。

5試合に勝ち、見事優勝をつかんだ下妻中学校の植木隼人主将は「練習してきた成果を出せた。この優勝におごらず、仲間と一緒に練習し、総体で全国大会出場を目指したい」と意欲を語り、13年ぶりの優勝をチーム全員で喜んでいました。

5月10日、日立市の森幸恵さんから、鬼怒フラワーライン(大形橋下河川敷)で元気に泳がせてほしいと「花と万人の会」(飯島順一会長)に、大小5匹の鯉のぼりが寄贈されました。

今回寄贈に至ったのは、5月5日の子どもの日に、茨城放送の「It'sきたかん」というラジオ番組で「県西・県南地区でたくさんの鯉のぼりが泳ぐ姿がめずらしい」との現地取材を飯島会長が受けた際、「鯉のぼりが風に乗って元気に泳ぐと、互いにこすれ合ったりして傷むんです。地域の方から提供を受けて続けているが、年々数が減ってきて困っている」と話したところ、レポーターから「この場で募集してみましよう」と提案され、急きょラジオの視聴者に呼びかけたことがきっかけとなりました。

寄贈された鯉のぼりは、早速、鬼怒フラワーラインに吊るされ、川風に乗って元気に泳ぐ姿を眺める飯島会長は「家の中で眠っている鯉のぼりがあんなに、ぜひ鬼怒フラワーラインで泳がせてもらいたい」と話していました。

日立市民から「鯉のぼり」寄贈

ラジオでの呼びかけで「鯉のぼり」届く



届いた鯉のぼりを手にする飯島会長



砂沼一面に広がる釣舟

へら鮎釣りの名所として名高い砂沼で、砂沼愛魚会(吉川正己会長)が5月12日、「第47回砂沼へらまつり」を開催し、関東一円から98名の太公望が集まりました。

朝5時から釣舟に乗り込んだ太公望たちは一斉に砂沼一面に広がって糸を垂らし、優勝目指して腕を競いました。競技は釣ったへら鮎の総重量を競い、午後2時の競技終了の花火を合図に引き上げてくる太公望の顔には、笑みもあれば、渋い表情も見受けられました。

今回優勝した酒井正哉さん(栃木県野木町・46歳)はへら鮎を8枚釣り上げ、総重量は7.2キログラム。「今日は出来過ぎ。人のいないところを狙ったのが良かった」と謙虚



最大は41.5センチメートルでした

に喜び、「砂沼は、昔なつかしい野釣りの雰囲気味わえる場所。是非また来たいです」と話してくれました。

へら鮎釣りのメッカ「砂沼」で太公望が腕を競う
第47回砂沼へらまつり



4月24日、きぬ駐在所の開所式が行われ、茨城県警察をはじめ、地元の防犯・交通安全ボランティア団体などから関係者約40名が参加しました。

きぬ駐在所は、宗道・大形・蚕飼の3つの駐在所が統合され、宗道駐在所の場所に、旧千代川村の全域を管轄する新たな「駐在所」として生まれ変わり、警察官が1名から3名体制に強化されました。

また、駐在所の延べ床面積は以前の宗道駐在所の約2倍となり、新たにコミュニティスペースが設置され、地域住民の相談スペースや地域コミュニケーションの場として「県民安全センター」の機能を持ち、地域住民との絆を深める千代川地区の安心・安全なシンボルとして大いに期待されます。

開所式では、下妻警察署の櫻井哲朗署長が「きぬ駐在所では、警察官が3名体制となることで、昼夜を問わないパトロールの強化や事件・事故に迅速な対応ができるメリットがある。地域の治安維持にしっかりと努めていきたい」と力強く語りました。

地域の安心安全の拠点が完成
きぬ駐在所開所式



リニューアルした「きぬ駐在所」